

会 議 要 録

会 議 名		令和 7 年度 第 4 回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和 7 年 1 0 月 2 9 日（水）午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 0 0 分
場 所		市役所本庁舎 5 0 5 会議室
出席者等	委 員	1 4 名（欠席者 3 名）
	事務局	こども家庭部長、子育て支援課長、こども家庭センター長、教育指導担当部長、地域学習支援課長、子育て支援課こども・若者支援担当係長
傍 聴 人		3 名
会議内容	1 開 会 2 議事 (1) こだいらこども・若者みらいプラン 素案について (2) こどもの権利に関する各種啓発について 3 情報交換・意見交換 4 その他 5 閉 会	
配付資料	【事前配付】 資料 1 こだいらこども・若者みらいプランについて 資料 2 こだいらこども・若者みらいプラン（素案） 資料 3 こだいらこども・若者みらいプラン【素案概要版】 資料 4 こだいらこども・若者みらいプラン【素案概要版_こども版】 資料 5 こどもの権利講演会チラシ 【当日机上配付】 参考資料 1 こどもの権利啓発リーフレット【小学生版】 参考資料 2 こどもの権利啓発リーフレット【中・高生版】 参考資料 3 こどもの権利周知動画 参考資料 4 こどものけんりつうしん vol. 2 ・令和 7 年度版子育てガイド ・令和 7・8 年度版若者応援ガイドブック ・ライフデザインセミナーチラシ ・広報誌『ひらく』5 7 号	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

2 議 事

(1) こだいらこども・若者みらいプラン 素案について

事務局	<p>資料 1 の 1 計画策定の背景について、国は、令和 5 年 4 月にこども基本法を施行し、これに基づき、従前の「少子化社会対策大綱」・「子供・若者育成支援推進大綱」・「子供の貧困対策に関する大綱」が束ねられ、「こども大綱」に一元化された。また、市町村はこども大綱を勘案してこども施策についての計画を定めるよう努めるものとされた。</p> <p>小平市ではこれまで、「小平市子ども・若者計画」に基づきこども・若者施策を推進してきたが、こども基本法が策定され、こども施策全体として統一的・総合的に、市民にとって一層わかりやすいものにするため、小平市子ども・若者計画を前倒しで見直すとともに、（仮称）小平市こども計画を策定するも</p>
-----	---

のである。

2計画の位置づけについてであるが、こども基本法第10条第2項を策定根拠とし、市のこども施策を推進する総合的な計画として、子ども・若者育成支援推進法第9条第2項に規定する市町村子ども・若者計画、子どもの貧困対策の推進に関する法律第9条第2項に規定する市町村計画を包含する。

また、計画の策定に当たっては、小平市第四次長期総合計画や、関連する個別計画等と整合性を図る。

3計画の期間についてであるが、令和8年度から令和16年度までの9年間とする。小平市子ども・子育て支援事業計画（第三期：令和7年度から令和11年度まで、第四期：令和12年度から令和16年度まで、それぞれ5か年計画）の期間終了に合わせ、次期（仮称）小平市こども計画策定時には2つの計画を統合する。

4～6については資料のとおりであり、7 市民意見公募手続（パブリックコメント手続）の実施についてであるが、(1)期間は令和7年11月15日（土）から12月14日（日）まで30日間を予定している。(2)方法は市ホームページ、電子メール、ファクシミリ、送付又は持参としている。(3)閲覧場所は、子育て支援課、市政資料コーナー、市ホームページ、東部・西部出張所、児童館としている。(4)周知方法は、市報（令和7年11月20日号）、市ホームページ、市公式SNSとしている。

8パブリックコメントにあわせたこどもからの意見聴取として、(1)期間は令和7年11月19日（水）から12月15日（月）まで（27日間）を予定している。(2)方法は市ホームページ（Log oフォームにより回答フォーム作成）、意見箱設置、シール投票、寄せ書きを予定している。(3)設置場所は児童館（3館）には意見箱、シール投票、寄せ書きを配置する。こども広場（6か所）には意見箱、寄せ書きを配置する。(4)周知方法は、ホームページ（キッズページ）、市公式SNSとしている。

9講演会実施についてであるが、(1)目的として、こだいらこども・若者みらいプラン策定にあたり、こどもの権利に関する講演会を開催し、こどもの権利に関する啓発を行うとともに、こだいらこども・若者みらいプランパブリックコメントの実施を周知する。資料5にこどもの権利講演会チラシを添付している。(2)日時は令和7年11月15日（土）10時00分から11時30分としている。(3)場所は中央公民館ホールで、(4)講師はFC東京コミュニティジェネレーターの石川直宏氏である。

10今後の予定は資料のとおりである。

資料2こだいらこども・若者みらいプラン（素案）について、第1章、第2章の前回からの修正箇所は、P12 令和7年度に実施した個別の意見聴取についての取組を追記したほか、P28 子ども家庭支援センター養護相談の内容の令和5・6年度件数を追記した。P38 令和7年度に実施した個別の意見聴取のうち、(2)小平三小出前講座、P39（5）武蔵野美術大学「市の課題に関する報告会」、P42（10）令和7年度第1回市民と市長のタウンミーティング、P43（11）声の聴かれにくいこどもたちに意見聴取を実施 を追記した。

第3章計画の基本理念・基本目標について、P51には1基本理念、P52には2基本的な視点、P53には3基本目標を掲載している。P54から55は4計画の体系図を掲載しており、160の事業を掲載している。

第4章について、P58には重点事業を掲載している。こどもの権利を尊重し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図ること、こども、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながらともに進めていくこと、こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じて切れ目なく支援し、十分に支援することを推進していくために、特に重要な事業を重点事業として設定した。

基本目標１のうち、①No. 1（仮称）小平市こども条例の制定、②No. 2 こどもの権利の周知・啓発、③No. 5 各種事業での意見聴取の３つについては、視点１の「こども・若者の最善の利益を図る」を反映すること、こどもの権利を尊重し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図ること、こども、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながらともに進めていくことから、特に重要な事業を挙げている。④No. 26 児童虐待防止啓発、⑤No. 30 ヤングケアラー支援の２つについては、こども、子育て当事者の視点を尊重し、その意見を聴き、対話しながらともに進めていくこと、こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じて切れ目なく支援し、十分に支援する視点から、特に重点として設定している。また、児童虐待防止啓発より相談しやすい環境を作る必要があること、またヤングケアラー支援については担当を新設し、ヤングケアラーの早期発見・把握に努め、支援策の充実を図り、重点的に取り組んでいくためである。

基本目標２のうち、⑥No. 74 子育てガイドの発行、⑪No. 122 若者応援ガイドブックの発行の２つについては、こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じて切れ目なく支援し、十分に支援することとして、こどもや若者、子育て当事者が必要な情報を得られるよう取り組んでいくものである。

⑦No. 75 こどもＤＸの推進については、こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じて切れ目なく支援し、十分に支援することや、こども家庭部として取り組む子育て世代向けのＤＸ関連対応が多く検討されていることを踏まえている。⑧No. 93 乳幼児健康診査と⑨No. 96 保健指導活動（訪問・電話等）の２つは、こども家庭センターの母子保健事業の中で重要な事業である。⑧は集団健診の中で、発育・発達の確認と、疾病等の早期発見を図り、その保護者に適切な保健指導や心理相談を実施することで、乳幼児の健全な育成につながり、発達に心配のある乳幼児の保護者に対してはその後の経過観察につなげて必要に応じて療育期間を相談するなどを行っており、こどもの発達に応じ、切れ目のない支援につなげていくうえで重要な事業である。

⑨については育児不安の軽減や虐待予防等を目的に、保健師が訪問や電話相談等により継続的に支援している。⑩No. 108 幼保小連携については、こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じて切れ目なく支援し、十分に支援することとして、こどもの成長を切れ目なく支え、学びや発達が円滑に接続していくよう、こども大綱の趣旨に沿った重要な事業であることによる。

基本目標３からは、⑫No. 149 児童館⑬No. 151 地域子育て支援拠点事業（こども広場事業）・利用者支援事業（子育てコンシェルジュ）⑭No. 152 こどもの居場所創設事業を掲げている。この３つの理由としては、児童館・こども広場事業・子育てコンシェルジュ事業が子育て支援課の主要事業であることや、乳幼児から高校生、子育て世代までさまざまな取組を行っていること、今年度出張こども広場の拡充や新規事業（居場所創設事業）として実施しているであること。居場所が重要視されていることから複数挙げている。

P59には数値目標を掲載しており、小平市のすべてのこども・若者が、身体的、精神的、社会的に幸福な生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現に向け、こども・若者や、子育て当事者の視点に立ち、設定した。

基本目標１の①「自分のことが好き」と思うこども・若者の割合、②「自分の考えを市の制度や取組に伝えることができる」と思うこども・若者の割合については、視点１の「こども・若者の最善の利益を図る」を反映している。

また、関連するこども大綱での「今の自分が好きだ」と思うこども・若者の割合、「こども政策に関して自分の意見が聴いてもらえている」と思うこども・若者の割合の令和１０年度末目標値が７０％であるため、小平市では計画終了期の目標を８０％とした。③子ども家庭支援センターの利用者満足度について

	<p>て、子ども家庭支援センターでは、児童虐待など、こどもと家庭に関するあらゆる相談に応じるとともに、子育てに関する情報提供など、こどもと家庭への総合的な支援を実施しています。子育て家庭が困ったときに状況に応じた環境を整えるという観点から、子ども家庭支援センターの利用者満足度を挙げた。</p> <p>基本目標2のうち、④こだっこアプリのこども1人あたりアクセス数について、子育て世代が市からの情報を得る手段として非常に有効なアプリであることを知ってもらい、より多く利用していただくために、こども1人あたりのアクセス数を目標値として掲げた。⑤乳幼児健康診査の受診率については、重点事業としており、確実に健診を受けてもらうよう受診率100%を目指すことによる。</p> <p>基本目標3のうち、⑥児童館の利用者満足度、⑦こども広場の利用者満足度は、地域におけるこども・若者や子育て世代の居場所として、当事者であるこどもや子育て世代の声を聴きながら、よりよい地域における居場所を目指すため、数値目標を掲げることとし、満足度100%を目指すこととした。</p> <p>P60からは2施策の展開として、各事業を掲載している。</p> <p>第5章計画の推進体制について、P87の1計画の推進体制は、(1)こども・若者施策に関わる課で構成する「こだいらくこども・若者みらいプラン庁内推進委員会」にて協力、連携、調整を図り、本計画を総合的に推進する。(2)について本青少年問題協議会の意見を踏まえて計画を推進している。また、こども施策の総合的な推進を図るため、青少年問題協議会について、今後見直す予定としており、今後子ども・子育て審議会と青少年問題協議会の統合に向けて調整していく旨を記載している。(3)について、市は関係機関をはじめ、地域や事業者等、こども・若者に関わる多様な主体と連携し、多岐にわたるこども・若者施策を推進する。また、こども・若者一人ひとりが自分らしく幸せにすることが、地域全体で取り組むべき課題であるという共通認識のもと、相互に協働・連携して取り組んでいくことが大切である。(4)について、こども基本法の趣旨を踏まえ、こども・若者に関わる施策については、当事者であるこども・若者の意見を聴きながら取り組む。</p> <p>資料3は概要版、資料4はこども版の概要版である。</p>
委員	<p>全国的に特殊詐欺が増えており、小平市でも同様である。特にニセ警察官や総務省、電話会社を名乗った電話から「あなたの電話が犯罪に使われている」という説明になり、遠方の県警から今すぐ来てください、特別にLINEで取り調べしますとなり、あなたの口座が資金洗浄に使われているなど言われて脅され、振り込め詐欺に誘導され、だまし取られてしまう手口が横行している。もしそのような電話がかかってきたら、すぐに信じずに「折り返します」と一度電話を切ってほしい。警察では様々な媒体を使って手口を周知することに力を入れているが、大人でも知らない人がいるので、こどもにどう周知啓発するのかが大事であると感じている。こどものインターネット利用時間が多くなっているというが、どうしても関心のあることしか情報を得ていない現状がある。警察ではデジポリスというアプリを作っており、電話による特殊詐欺への対応や犯罪状況がわかるので、ぜひ使ってみてほしい。</p> <p>計画の素案を見ると、色々な取組の中でこどもの意見を聴くことを行っているが、携帯電話を持っていないこどもが声を発信するには、学校のタブレットなどを活用していくのが良いと思った。あと、児童相談所と連携して対応しているとは思いますが、一時保護所などを市内に新設してもらえるとありがたい。児童相談所は飽和状態であるし、市内に一時保護所があると保護対象のこどもの家族も近くて安心できると思うので、検討してほしい。</p>

委員	<p>少し前から世の中がこどもに失敗をさせない風潮になっており、公園ではキャッチボールができないところも多く、野球をするにもクラブチームに入らないとできないような現状がある。失敗をさせないように制限していることが多すぎて、色々と経験する機会が減ってしまっている。未来を考えていく中で、小学生の時に自由に集まって遊ぶような環境があったほうがいいと思う反面、実際の教育現場では制限が多い部分もあり、矛盾を感じることもある。こどもの成長のために、色々な取組を進めてほしい。</p>
委員	<p>市の取組として、様々なことをしていると感じた。これを知ってもらうことが改めて課題だと感じた。こどもの権利について、やっと日本でも言われるようになったが、こどもの権利を大事にしている世の中に向かっているかという、その逆に進んでしまっていると感じている。国としては権利が大事と言っているが、社会としては、競争がこれだけ進んでいくと、結局競争に生き残っていくことや、周りを見ながら比較して自己評価を行い、安定して生活していくために、受験などが代表例であるが様々な問題があって、非常に難しいと感じている。学校が非常に大事ではあると思うが、学校以外でどう伝えるかという、自分の興味のある情報しかインターネットで得なくなっている状況である。一つ一つのことを積み重ねていくことによって、次につながっていけばいいなと思う。</p>
委員	<p>日頃小学校・中学校で放課後の活動や青少対の活動などを通じてこどもたちと関わっている中で、参加しているこどもは親が家にいない子が多く、居場所を探しているのかなと感じる。親でも学校の先生でもない身近な第三者の大人に対し、自分の言いたいことが言える、やりたいことが言えるという子がいると、本来はそれが親の役割ではないかと思い、さみしい気持ちになることがある。関わった子が社会の一員として自立し、大人になっていけるような種まきができるといいなと思っている。</p>
委員	<p>前回会議資料と比較するとわかりやすく、詳しく書かれているが、範囲が広く事業が多すぎて、中々理解してもらえないのではないかと感じている。数値目標があってすごくわかりやすく、より多くの人に見ていただきたいので、困り事や子育てなど、それぞれの分野に分けて行政の施設に置いておくと、手に取ってもらえるのではないかと感じる。人は関心がある施設に行き、関心がある資料を持って行くということがある。昨年度にはアンケートを行い、こんなに膨大な資料を作っているのに、手に取ってもらいやすいようにしてほしい。</p>
委員	<p>数値目標のうち、②「自分の考えを市の制度や取組に伝えることができる」と思うこども・若者の割合について、目標値を80%と高く設定しているが、現状の高校生や学生一般の数値が低いので、何か取組が必要ではないかと思う。</p>
委員	<p>乳幼児や小中学生に向けた取組がたくさんあるので、高校生や学生に向けた取組がもう少しあるといいなと思った。</p> <p>自分のアルバイト先のスポーツスクールに、中学生で不登校の子が来てくれていて、自分はその子にとって身近な第三者となっている。市が困っている人にだけ支援策を周知するだけでなく、広く周知することで、自分のような第三者が身近に困ったこどもがいた時にもっと良い対応ができると思った。</p>
委員	<p>こどもの権利のリーフレットをこどもが学校でもらってきて、こどもから自分にとってはとても当たり前のことが権利として書かれている上に、「こんなことないかな？」という欄に記載された内容は、自分には当てはまらないので、</p>

	<p>なぜ配られるのか、と話があった。学校の中には「こんなことないかな？」の事例にあてはまる子がいるので、もし該当することがあったら相談しようというのをお知らせしたいものだと言った。相談先はたくさんあるが、困っている人は自分の権利についてなかなか気づきにくい。また、困っていない人がこういう啓発を知っていくことが、困っている人の助けになると思った。小さい時からこどもの権利について知っておくことがとても大事だと思った。</p>
委員	<p>No. 160の事業について、ワークライフバランスやジェンダーギャップの解消と書くと、「解消」が両方にかかっているので記載を修正したほうがいい。</p> <p>膨大な資料なので、一般の人が読むのがすごく大変である。今までもやっているが大事なので継続して実施する事業と、世の中の動きに合わせてこれから新しく実施する事業の2つがあると思う。せっかくなので、これは新規だと記載したほうがいい。</p> <p>計画の事業の説明について、具体的な事業内容が記載してあるものと、抽象化された事業があると感じた。</p> <p>地域が崩壊していると言われることもあるが、こどもを地域とともに育てることが重要だと思う。例えば自治会など、市として補助も出している。その中で地域のリーダーが育っていくというのもあるので、色々な施策の中で取組を深めていけるといいと思った。</p> <p>なによりも健康と安全の問題が大事である。コロナの時にプール指導ができなかったというのがある。学校教育でどこまでやるかという問題もあるが、細かいところに目を付けてやっていくというのも大事だと思った。学校給食も市内の農家と協力しているから特色のある事業になり、こどもたちもそれを誇りに思うことにつながっている。計画策定を機に、小さなアイデアでも出してほしい。</p>
委員	<p>No. 151のこども広場事業について、乳幼児から中学生の遊び場としてと記載があり、中学生が遊ぶには広いスペースが必要だと思うが、どのようなイメージか。子育てコンシェルジュが相談に応じるという記載について、知り合いから支援が必要だが何かないかと相談されたが、支援の制度としてはたくさんあるが、なかなかどれと選ぶことができなかった。こういう時に子育てコンシェルジュに相談できるといいと思った。</p>
委員	<p>幅広い計画で、小平市でこんなことをしていたのかと初めて知ったようなことがある。いろいろ市報などで広報してもらっているが、重点を置いているのがなにかをもう少しわかりやすくしてもらえるといいなと思った。大沼地域センターの裏にプレハブがあり、それが子育て支援の施設であることを知ったのは最近のことで、近くに住んでいるのに、申し訳ない気持ちである。</p> <p>質問がいくつかある。児童館については、重点を置いて児童館を増やしていくという意味か。また、学童クラブと連携することがあるのか。児童館に図書館など様々な子育て支援のサービスをまとめるような大きな構想はあるのか。幼保小連携は充実させていくのか。スクールカウンセラーは東京都の人員配置に市がプラスして配置する予定はあるのか。</p>
事務局	<p>児童館を増設する予定はないが、今ある3館の児童館で、こどもの声を聴きながらこども主体でイベントなどを考え、事業内容を充実させていく予定である。</p>
事務局	<p>幼保小連携においては、現在、連絡会や合同研修会を実施している。今後はそれに加えて、こども同士の交流の場を設けることや、文部科学省の方針を踏まえた接続期のカリキュラム作成に取り組む予定である。このカリキュラムを</p>

	完成させた後、市内の全保育園・幼稚園・小学校で共有し、円滑に接続できるよう連携を強化していく。
事務局	スクールカウンセラーについては、市独自で配置する予定はない。
委員	計画の分量がとても多いので、これをどう届けて行くのかが課題であると感じている。また、計画の表紙や内容のデザインや字体を工夫することにより、手に取ってもらいやすくし、読みやすくしていくことが大事だと感じている。
会長	次回会議時にどのような工夫をされたのか事務局に説明をお願いしたい。
副会長	朝の居場所づくりは事業として始まっているのか。こどもの登校時間が朝早いと、朝の通学の見守りの人たちが出てくる時間の前になってしまうので、安全面について課題があると感じている。こどもの意見のとりまとめはたくさん意見が寄せられると大変であると思うが、どのように作業をしていく予定か。
事務局	朝の居場所づくり事業は、朝の学校施設開放事業として、令和7年9月から市内小学校3校で試行実施している。
事務局	こどもの意見の集約については職員が作業を行っていく予定である。

(2) こどもの権利に関する各種啓発について

事務局	<p>参考資料1 こどもの権利啓発リーフレット【小学生版】、参考資料2 こどもの権利啓発リーフレット【中・高生版】は、10月上旬に市立小・中学校の全児童・生徒向けに配付したほか、市内私立中学校、市内高等学校にも一定数送付した。そのほか児童館、市内図書館・公民館等の各公共施設、ティーンズ相談室ユッカ、子ども家庭支援センターに配置した。</p> <p>参考資料3 こどもの権利周知動画について、動画を作成し、市ホームページに掲載したほか、11月15日実施予定のこどもの権利講演会にて上映予定である。</p> <p>参考資料4 こどものけんりつうしん vol.2 について、11月のこどもまんなか月間に合わせて発行し、市ホームページやこだっこアプリなどで周知したほか、学校等にも配付した。その他の本日の配付資料としては、若者応援ガイドブックには武蔵野美術大学学生の協力を得て特集ページを作成したほか、12月に実施予定のライフデザインセミナーのチラシを配付している。</p>
-----	--

3 情報交換・意見交換 なし